令和５年度　社会科　委員会

世話係　　降籏　敏昭（安曇小中）　　委員長　伊藤　　拓（奈川中）
委　員　　島川　陽菜（清水小）　　藤巻　聡史（波田小）　　横山　享司（安曇小）
　　簾田　典彦（開成中）　　伊藤　彬　（明善中）

目次　　Ⅰ　研究の概要　　・・・　１ページ
　　Ⅱ　小学校の事例　・・・　３ページ
　　単元名：小学校３年「店ではたらく人」　授業者：島川　陽菜（清水小）
　　Ⅲ　中学校の事例１　・・・　１３ページ
　　単元名：中学校１年「アフリカ州　～『グローバル化』と『開発』の光と影～」
　　授業者：伊藤　拓（奈川中）
　　Ⅳ　中学校の事例２　・・・　２０ページ
　　単元名：中学校３年「現代の日本と私たち」
　　授業者：竹形　郁哉（波田中）

研究テーマ

自ら問い、学び続け、豊かな見方・考え方が育つ社会科学習

Ⅰ　研究の概要

社会科委員会は、日頃の悩みや実践の情報交換をしながら、「素材の本質」を見極め、教材化することを学び合い、複数の学校・学級で授業を行う実践を重ね、多くの成果をあげてきた。

１　小学校

小学校では、学習展開における「児童の辿る学びの道筋」を把握することを大切にしてきた。その上で「素材の本質」を見極める教材化をし、「その子なりの学びがどのように深まったか」、「その子なりの見方・考え方がどのように豊かになったか」をとらえていくことで、教材化をはじめ社会科授業のあり方自体を問い直してきた。今年度は、３年生「店ではたらく人」の単元で、授業校の学区にある小規模の商店、K 商店を素材とし授業実践を行った。同商店は、大型の商業施設の誕生など、時代の変化の中で小さなお店の閉店が続く中でも、地域の中で長年営業を続けているお店である。授業者は同商店に何度も足を運び、お店の工夫を聞き取ったり、市場に同行して仕入れの様子を見学したり、また保護者を対象としたアンケート調査をしたり、徹底した素材研究を行い「素材の本質」を導き出した。単元の中では、同じ学区にあるスーパーA の見学、K 商店の見学や買い物、身近な人からの聞き取り等の体験的な学習を取り入れ、「その子なりの見方・考え方」を大切にしながら学習を進めてきた。そして、毎時間の児童の発言や意識の流れを書き起こしながら授業を進め、本時を構想した。

２　中学校

中学校では、小学校と同様「素材の本質」を見極める教材化と、「児童の辿る学びの道筋」を把握する「子ども理解研究」を研究の柱とし、小中合同で研究を深めてきた。中学校では、小学校で獲得した知識や経験の上に立ち、地理的な広がりや歴史的な時間のつながり、経済的な視点などを取り入れながら学ぶ生徒の姿、問題をより自分のこととして考え、自ら判断・解決していく生徒の姿を目指して授業実践を行っている。地理分野では「世界の諸地域～アフリカ州～」の単元で授業実践を行い、アフリカ州で現在も進んでいる「グローバル化」や「開発」の光と影の両面を見つめ、「アフリカに投資をするのか、しないのか」あるいは「開発や援助を進めるのか、進めないのか」という現実

の社会が直面している課題と向き合う授業を構想した。また、波田中学校（松塩筑教育課程研究協議会社会科）との共同研究を行った。

3　小中合同による子ども理解研究

社会科委員会では、単元を通して「子ども理解研究」を行っている。その子の「日常生活」と「各単元における学びの姿」を記録蓄積し、授業記録における発言やつぶやき、学習カードへの記述から、会員同士が「その子の学び方」「その子らしさ」「その子がどのように本質に迫ろうとしていたか」を考え合った。このような議論の中で「その子の発言の奥にある社会認識とは何か」をとらえることで、教師はそれに対する「手だて」を具体的にできることがわかってきた。まだ発展途上の研究ではあるが、継続していきたい。

4　成果と課題

（1）　成果

単元の山場である思考・判断・表現場面において、小学校、中学校共に「意見交流（話し合い）すること」を大切に授業実践してきた。そして、日常の姿、前単元や本単元の過程で抽出児童生徒の姿を記録し続けることにより、「その子なりの見方・考え方」があり、「それぞれの子が着目する根拠が異なっていること」が改めて確認されている。従って、「意見交流する（話し合う）こと」で、友達の見方・考え方に触れ、その子にとって薄く捉えていた根拠を見返すことにより、見方・考え方が、より豊かに広がり、深まっていくことが明らかになってきた。その「見方・考え方」を「子ども理解」によって的確にとらえることも授業づくりにおいて重要であることがわかってきた。「素材の本質」を導き出した上で授業実践する研究を継続しつつ、そこに迫る子どもの姿についてさらに研究を深めていきたい。

（2）　課題

一点目は**「単元展開の重要性」**である。意見交流の中で見方・考え方を広げ深めるためには、事実認識の段階で根拠となる事象を意図的に押さえておく必要がある。そのために単元展開の構成が重要となってくる。児童生徒の意識に沿った単元展開を作成し、その中に根拠となる事象を配置し、児童生徒が着目している根拠を教師が把握しながら展開するのである。限られた時数の中で、いかに豊かな「見方・考え方」を育んでいけばよいのか。この点をさらに研究する必要がある。そのためには「素材の本質」を見極める研究とともに「子ども理解」研究の一層の充実が必要だ。

二点目は**「学習材の提示」「教師の出」**の重要性である。子ども達は「その子なりの見方・考え方」をもちながら「素材の本質」にそれぞれの辿り方で迫っていくこともわかってきた。最後に「思考・判断・表現」場面のクライマックスで私たち教師はどのような「詰め」をしていくべきか。そこで重要な鍵となるのが「学習材の提示」とその時の「教師の出」だ。「子ども理解」の視点に立った研究を続け、教師である私達自身が「研ぎ澄まされた状態」で授業に臨めるよう精進を続けたい。

（3）「豊かな見方･考え方」とは

以上を踏まえ、社会科委員会では見方・考え方をどのように「豊かに」育てるのかを継続して研究してきた。それは、学び方（視点や方法を用いて追究すること）に加え、「矛盾や葛藤、人間としての温かい心」を内包した見方・考え方を明らかにすることであり、授業実践を通して「見方・考え方とは何か」をあらためて考え合うことである。コロナ禍や会員の減少など研究の継続そのものが危ぶまれている中でも、従来の研究スタイルをできる限り維持し、複数校での実践や小中学校のさらなる連携を大切に、社会科授業実践をすることが私たちのブレない信念である。

Ⅱ　小学校の事例

１　はじめに

松本支部小学校研究部会では、３学年「店ではたらく人」の単元で実践を検討してきた。実践校である清水小学校の学区にはスーパーAがあり、保護者の方に買い物アンケートを取ると、多くのお家がスーパーAで買い物をしていることがわかった。一方、松本城見学に向かった際、子どもたちからある店の前で「先生、このお店知っている？お弁当バイキングができるんだよ」「来たことある！」という声が上がった。それがK商店である。授業者は、素材研究を進めていく中で、K商店独自の「賞味期限が迫った食材を使ってワンコインのバイキング弁当を作ることで、食材を無駄にせず、かつ常に新鮮な生鮮食品をお店に並べることができる工夫」に魅力を感じ、K商店を取り上げようと考えた。

２　素材研究「K商店の素材の本質」

授業者は、何度も K 商店に通い店主に話を伺った。通ううちに店主と一緒に市場のせりに同行させてもらうこともできた。以下、同じく見学に伺ったスーパーA と比較し、店主から伺った話をもとにお店の工夫や特徴をまとめた。

⑴　K 商店とは

・1919 年（大正８年）から営業している。現在の店主は３代目。(以下ご主人)
・昔は卸売りもやっていたが、今は小売店のみ。
・創業当初は魚屋さんだったが、今は野菜もお肉もお魚も売っている。
・お年寄りでも食べやすいようにお刺身や食品を小さなパック（食べきりサイズ）にして売っている。

⑵　大型複合施設スーパーA との比較

スーパーA		K 商店
約 2300 台	駐車場	4 台
約３万点	品物	約 2000 点
有人レジの他にセルフレジや スマホで支払いを済ませながら買い物ができるレジゴーにも対応している。	レジ	有人レジ１台
スーパーA 信州 XD 低温センターから運ばれたり、市場から仕入れたりする。 また、農家さんから直接仕入れているものもある。	仕入れ	ご主人が毎日市場に行って仕入れている。
お店に来た人が楽しく買い物をしてほしいと考えている。	お店の人の対応 （見学に行った際の児童の感想より）	とても優しい。 丁寧に教えてくれる。
PB ブランド商品	独自の工夫	バイキング弁当
廃棄する	賞味期限が近いものへの対応	バイキングのお惣菜として活用

⑶　バイキング弁当について　お店の工夫・特徴

・バイキング弁当（５００円）をやっている。お店の生鮮食品の中で、賞味期限が迫ってきている食材を活用しておかずを作っている。食べ物を粗末にしないというご主人の考えがある。
・朝５：３０～６：００ぐらいから作り始める。現在は、４人で作っている。毎日２５種類ほど作る。一度に並べるのは、13～20 種類くらい。少なくなってきたら新たなおかずを出す。
・バイキング弁当を利用している７割が男性。１週間に３日以上来る人もいる。
・メニューは、その日安く手に入ったお店の食材などで何か作れるのかを考えてみんなで決めている。

⑷ バイキング弁当についてご主人のお話

「バイキング弁当を始めた理由は、SDGｓ。昔は、近所に食堂が４･５件あった。今は、０件。でも、それじゃあ（地域の人は）かわいそう。ワンコインというのは、支払いが楽だから。忙しいお昼時に早く買えたほうがいいかなと。あと、毎食お金をかけていられないでしょ。だから、５００円で。」

「昔は、お弁当としてやってみたこともあった。しかし、売れないし、ランニングコストがかかる。お弁当は作るのは楽だけれど、決まったものしか入っていないので中に食べたいものが入っていないこともある。バイキングだったら、楽しみだし、いろんな種類のおかずを食べることができる。食べられる分だけ持っていくことができるから、食品ロスも減らせる。正直、何種類も作るのはめんどくさいし、資材費や光熱費の高騰で厳しい。だけど、やせ我慢。６００円にするのはちょっとね。忙しいお昼に 1000円払って４００円のおつりのやり取りをするのって気持ち的にも時間的にも違うかなって。大変だけれど、楽しみに人が来てくれて、買っていってくれれば、食品も残らなくてWin･winでしょ。うちのお弁当は、お魚も食べられるし、野菜も取れる。とにかく野菜は、原価が安いからたくさん提供できる。ヘルシーフーズだね。」

⑸　ご主人が大切にしていること

「地域のつながりを大切にしている。昔は、それが当たり前だった。お肉屋さんがあって、お魚屋さんがあって、その人たちがコミュニティーをつくっていた。そして、お互いに持ちつ持たれつ、足りないものを補いながら社会が成り立っていた。これがガクッと来たのが、大型店ができるようになってから。小さいお店はやっていけなくなって、お店を閉めちゃう。地域をないがしろにしたという感じ。その中で我々の小さなお店がどうやって生き延びていくのか、知恵を出さないといけない。3人寄れば文殊の知恵。仲間が多くいれば楽なのだけれど。大型チェーン店は、上から決まっていて優秀な人間がいるからいいものができる。ところが我々は、時間的、お金的にもつらいところがある。でも一生懸命やるよ。お客様になにか一つでも評価されているということがうれしい。大型店は数字での評価かもしれないけれど、我々は数字で生きていない。一番大切なことは信用。社会的責任を果たさないといけない。お客様に信頼されないと。毎日こうやって来てくれる。こういう人たちが来てくれるお店にしようと思ってやっている。」「信用の中で一番大切なことは『正直』なこと。商品に正直に、価格に正直に。『安全』『安定』『安価』いかにこの商品は『安全だよ、口に入れても安心だよ』という商品を提供できるか。今日の食べ物、明日の食べ物があることも大切。町場に住んでいる人は大企業に勤めている人が少ない。所得ははっきり言って低い。その中でいかによりよい生活ができるか。それってやっぱり食べ物が安くないと。この３つがうちの、ぼくのポリシー。利益追求だけでは、ダメ。儲からないから逃げるなんてこれは、めちゃくちゃだよ。言語道断だよ。社会は人が支え合っている。この地球の中では、自分だけいいってわけにはいかない。」「人とのつながりが大切。何でもお金やもので解決するというのは違う。そうなってくると子どもたちの心がすさんじゃう。豊かにならない。」

スーパーAでは賞味期限が迫ってきた食材を廃棄する。そうすることで、常に新鮮な食材を店頭に並べることができる。「賞味期限が迫ってきた食材でお惣菜を作ることはお惣菜のクオリティを下げることになる。クオリティは下げたくない。だからこそ廃棄はやむを得ない」というのがスーパーAの考えである。一方で、K商店ではお店に並んでいる食材でお惣菜を作っている。ご主人は、「少し古くなったらバイキング弁当のおかずにしている。」と語っていた。そうすることで、店頭には、常に新鮮な食材を並べることができるのである。「お客様に新鮮な食材を」という点で両者の願いは一致している。その上で、K商店では、お客さんに選ぶ楽しみがあり、廃棄ロスを無くすことでお店の利益にも繋がるバイキング弁当を５００円という価格で行っている。資材費や光熱費の高騰のあおりを受け経営的には厳しいが、「やせ我慢」をしてでも、バイキングを楽しみに来てくれるお客さんのためにできる限り現在の価格を維持したい、昔から店に来てくれている地域のお年寄りのためにもお店を続けていきたいと願うご主人の姿があった。これらの素材研究もとに、K商店の素材の本質を導き出した。

【K商店の素材の本質】　スーパーAでは廃棄するような、賞味期限が迫った生鮮食品を使ってバイキング弁当を作ることで、安くて食べたい消費者のニーズや、近くて安く、新鮮な食材を求める消費者双方のニーズに応えながら、廃棄の無駄を無くし、仕入れたものを全て使って利益を出すことで、お客さんとお店の「Win-Winな関係」を築き上げているK商店。

３　単元の目標

【知識・技能】

見学してわかったことや、お店の方の話を手掛かりにしながら、販売に携わる人々が、消費者の願いにこたえるために、様々な工夫をしていることを理解できる。

【思考力・判断力・表現力】

販売に携わる人々の工夫や努力を整理したり分類したりしていく中で、販売に携わる人々が行っている様々な工夫や努力と、多様な消費者のニーズとのかかわりについて考え、自分なりの言葉で表現している。

【学びに向かう力・人間性等

販売に携わる人々の工夫や努力生き方に興味をもち主体的に調べようとしている。

４　単元展開

時数	学習問題	○学習活動	・手立て
1	家の人はどこのお店へ食料品を買いに行っているのだろうか。	○お家の人へのインタビューを行ってグラフを作成し、読み取る。	・グラフで全体の様子が見られるよう、インタビュー結果を入力するようにする。
2	どうして、スーパーBやスーパーC、スーパーAにはたくさんの人が買い物に行くのだろう	○子どもたちの考えをもとに、単元を貫く学習問題を決め出す。	・一人ひとりが問いの意識をもつことができるよう、インタビューをメモしてきた紙を見ながら考えるように声をかける。
3	スーパーAには、どんなひみつがあるのだろうか。	○スーパーA ではどんな工夫をしているのか予想する。	・見学に行った際の観点となるよう、クラス全体で共有する。
4 ・ 5	スーパーAに行って、お客さんが来るうらがわをさぐろう。	○スーパーA を見学したり、お店の方に質問をしたりする。 ○見学をしてわかったことをまとめる。	・班ごと問い（予想）をもって見学に行くことができるように促す。
6	売れ残ったまだ食べられるものを捨ててしまうことはしかたないのだろうか。	○スーパーA では売れ残った生鮮食品を廃棄していることについて話し合う。その中で、売れ残った生鮮食品を廃棄していないお店（K 商店）があることを知る。	・賞味期限が迫った食材を廃棄するスーパーA は悪いとならないよう、スーパーA 側の立場でも考える。
7 8 9	K 商店とはどのようなお店なのだろうか。 K 商店はどのようなお店なのか、実際に行ってたしかめよう。 K 商店ではどんな工夫をしていたのかまとめてみよう。	○K 商店について知っていることを、共有し、スーパーA と比較しながらK 商店についてまとめる。 ○K 商店を見学したりお店の方に質問したりすると共に実際にバイキング弁当を食べてみる。 ○見学したことを表にまとめ、スーパーA とK 商店の違いについて考える。	・K商店とスーパーAを比較できるように、違いを表にまとめる。 ・仕入れの様子や販売の様子が分かるような写真や資料を提示する
10	どうして K 商店ではバイキング弁当を行っているのだろう。	○儲けをどうしているのかを詳しく確認する。 ○スーパーA が売れなくなったものを使わない理由を確認する。	・考えの根拠となるように、スーパーA の考えやK 商店の考えを提示する。

単元を貫く学習問題
お客さんに来てもらうために、お店ではどんなくふうをしているのだろうか。

11 本時	古くなった食材をおかずにしていることは、本当にお客さんのためなのだろうか。	○K 商店では、まだ食べられるが少し古くなった食材をバイキング弁当のおかずとして活用していることは、本当にお客さんのためなのかについて話し合う。	・自分の考えを広げ、深めることができるよう、板書を工夫したり、学習材を提示したりする。
12	どんなお客さんがバイキング弁当を買いに来るのだろうか。	○K 商店のバイキング弁当を買いに来るのはどんな人達なのかを話し合い、ご主人の思いを確認する。	・自分の考えを広げ、深められるよう、ご主人の言葉を提示する。
13	どうして、スーパーA と K 商店はやっていることがちがうのだろうか。	○スーパーA と K 商店が同じような工夫を行っていない理由について話し合う。	・これまでの学習をふり返りながら考えられるよう、紙板書や学習材を再度提示する。

５　本時に至るまでの児童の姿と本時の様子

【第１時～第４時】「スーパーAでは、賞味期限が迫った食材は廃棄することで、お客さんに常に新鮮な食材を提供している」という事実に出合った子どもたち

単元を貫く学習問題は「お客さんに来てもらうために、お店ではどんなくふうをしているのだろうか。」となった。多くの家庭が利用しているスーパーAでは、どのような工夫をしているのか予想を立て実際に見学を行った。見学を通して、子どもたちはスーパーAの「賞味期限が迫った生鮮食品は廃棄することで、お客さんに常に新鮮な食材を提供している」という事実に出合った。その中で「捨てるなんてもったいない。食品ロスだ。」「でも、お店の考えを知ると、しょうがないことなのかも。」と、考えを深めていく姿があった。

【第５時】「え、それってぼったくりじゃん。」とつぶやくR児

第５時では、仕入れ方を学びお店はお金を払って商品を買っているということを知った子どもたち。その中で、「売れ残ったものはどうなるのか」という疑問が生まれ、「捨ててしまう」という事実を知った子どもたちはスーパーA を批判的に見始めたが、「スーパーA にも考えがあるのかもしれない」ということを考え始めたことで、「それならしょうがないのか。」という考えが出始めた。

T　：お菓子の工場や飲みものの工場から買って、お店に並べている。（ここで仕入れ方を説明）
　　だから、例えば 500 円で仕入れたものを 800 円で売っていたりする。
R 児：え、それってぼったくりじゃん。うわー、ぼったくりだ。

事実認識と現時点でR児がもつ社会認識を照らし合わせながら、「ぼったくり」「売れたらお店のもうけになるのに」と直感的につぶやいたR児。「ぼったくり」は利益を追求する販売活動に対する社会認識不足であるので、きちんと事実認識することで納得するだろう。一方、R 児のつぶやきは、追究の糸口となり、教師の出や他の子の発言により、さらに理由を掘り起こしていくことで、やがて学習問題に発展していくことになる。

【第６時】賞味期限が迫った食材を捨てずに活用している K 商店に出合った子どもたち

第５時で、「捨ててしまうことは仕方ない。」という考えが出てきたところで、「売れ残ったまだ食べられる食材を捨ててしまうことは仕方ないのか」を話し合った。子どもたちはお店の経済面、経営面、環境の３点を根拠に考えていた。これが今後の子どもたちの考えの基盤となっていった。ここで、教師が「スーパーA の考え」を提示できていれば、子どもたちはお客さんの立場という視点でも考えることができたのではないか。

学習問題：売れ残ったまだ食べられるものを捨ててしまうことはしかたないのだろうか

子どもたちから出された考えを、立場ごとに分けながら板書した。

○仕方ない
・何かあって訴えられたら会社がつぶれちゃう。
・お客さんが来なくなる。
・古いものは買ってもらえない。

●仕方なくない
・スーパーAもお金をかけて仕入れているからお金の無駄になってしまう。
・お客さんに賞味期限とかまだ食べられるということを伝えればいい
・なにかやってみたり、試したりしてみないとやらないとずっと言っていたら何も変わらない。

T：実は、捨てていないお店もあるらしい。（ここでK商店を提示）

【第７時】「K商店を実際に見学したい、バイキング弁当を食べてみたい」と願った子どもたち

T：なぜ、スーパーAでは捨ててしまうようなものを汲田商店ではおかずにして売っているのかな。
・せっかく仕入れたものを捨ててしまうのはもったいない。お金を無駄にしているのと同じだから。
・お店が小さくて、お客さんに買ってもらいたいから加工食品にする。
・スーパーAに比べてお店が小さいからあまりお客さんに影響を与えないから。
・環境に配慮しているから。
・お店の人たちが子どものころに学んだ知識を使っている。それか、もったいないことが分かっている。
・それを捨てたらもったいないから。
・食品ロスを減らすため。何もやらなかったらなにも変わらないから。
・見た目を変えれば（おかずにしたら）、まだ食べられるから。
・スーパーAもやっていないし、お客さんも楽しくやってくれそうだから。
・実際に行きたい。お弁当も食べてみたい！行こうよ！（見学に行って、お弁当を買ってくる雰囲気になる）
T：じゃあ、明日の社会の時間に汲田商店に行って、お話を聞いてこようか。

第６時で子どもたちは、売れ残った食材を廃棄するのではなく、お弁当のおかずとして使っているK商店というお店があることを知る。第７時では、K商店がどんなお店なのかを、スーパーAと比較しながら調べていった。比較していく中で、「スーパーAでは捨ててしまっている食材を、K商店では使っているのはどうしてかな。」という教師の問いかけに対し、経済面、お店の経営面、環境面の３つの視点に加え、「お客さんも楽しくやってくれそう」というお客さんの立場で考える様子が少しずつ見え始めた。また、「もったいないことが分かっている」「何もやらなかったら何も変わらない」と、K商店の考えに迫っていく姿が見られた。予想をしていく中で、K商店に行って調べたいという子どもたちの思いが芽生え、見学へ行くことになった。

【第９時】K商店を見学して、「なんでスーパーAでは、残ったものをおかずにしないのか」と疑問をもったR児

R児：なんでスーパーAでは、残ったものをおかずにしないの？
・たしかに。
・お店が大きくてもうかるから。
・おかずにする時間がないのかも。売り場も違うし、品物も多いから作りきれない。
・やるのが大変。
R児：大変でもやれば商品ロスも減る！
・売れたらお店のもうけになるのに・・・

「なんで、スーパーAでは残ったものをおかずにしないの？」というR児の疑問に対し、子どもたちは共感し、考え始めた。ここでは、子どもたちの予想での話し合いとなっていた。第６時で教師が「スーパーAの考え」を提示していれば、この疑問は既習内容から解決していけたのではないかと考える。子どもたちは、スーパーAについて考えている中で、「K商店はどうして売れ残った食材をバイキング弁当のおかずとして使っているのか」という話に戻っていった。その中で、H児は「これって、お金が

儲からないか、それともお客さんが来ないからなのかどっちなの。」とつぶやいている。H児は、スーパーAについて考えた際に、「お店が大きいからそんなことしなくても儲かる。」「大変でもやればいい。売れたら、お店の儲けにもなる。」という、「儲け」「お店の規模」の意見から、このような疑問をもったのではないか。この時点で、「食品ロス」という視点と、「お店の儲けのため」という視点、さらに「お客さんが楽しめる」という視点から考える姿が見られた。

【第10時】「お店はお金がないとつぶれちゃうけれど、お客さんが楽しめるようにしたい。残り物を使えば、お金も無駄にならないし、食品ロスも減らせるし、お客さんも楽しめる。」と考えていたC児

第10時では、「どうしてK商店はバイキング弁当をやっているのか」ということを話し合った。初めはお金を儲けるためという意見に対して否定的に考える子もいた。その後、子どもたちはお店にとって儲けるということは大切であることや、スーパーA が賞味期限が迫った食材を廃棄する理由を知ると、「そうなると、K商店はどうなんだ？」「お客さん優先なのか、お店優先なのか。」という問いをもち始めた。そこから、「K商店が古くなった食材をおかずにしているのは、本当にお客さんのためなのだろうか」という学習問題ができあがった。この時点でC児は「お店はお金がないとつぶれちゃうけれど、お客さんが楽しめるようにしたい。残り物を使えば、お金も無駄にならないし、食品ロスも減らせるし、お客さんも楽しめる。」と、すでにK商店の本質に迫りつつあった。

第11時（本時）の学習問題： K商店が古くなった食材をおかずにしているのは、本当にお客さんのためなのだろうか。

【第11時（本時）】C児とR児の学びの様子】

本時では、「K商店が古くなった食材をおかずにしているのは、本当にお客さんのためなのか」自分の考えを伝え合い、話し合った。子どもたちは、友だちの考えを聞いて揺さぶられながら考えていった。話し合いが進み、クラスは「お客さんのためではない」という雰囲気に傾いていった。その際に「質の悪いものってどういうものなの？」という子どもの疑問に教師が気づき、クラス全体で確認できていれば、「バイキング弁当を買いに来るお客さんのニーズ」「新鮮な野菜を買いに来るお客さんのニーズ」に気づきながら、K商店の本質に迫っていくこができたのではないかと考える。以下C児とR児の学びの様子を中心にまとめた。

C児の学びの様子（本時）

①　「どちらも」という自分の考えをみんなに伝える場面

T　：みんなどう思った？（子どもたちは近くの人と話し始める。） **C児：私の意見は「どちらも」でした、なぜかというとお店にお金がないとお店はやっていけなくてつぶれちゃうから、そこは工夫しておかずにして出していて、でもお客さんにも楽しんでもらうために、「自分で盛り付けられるっていうところをつくったんじゃないかな」** A児　：え、結局お客さんのためじゃないってこと？ T　：両方言ってくれたんじゃない。お客さんのためっていうと何だった？ **C児：『お客さんのため』は、自分で好きな物を盛り付けられる。普通に売っていると自分が好きなもの以外入っていたりするから、それは選べないけどでもK商店だと選べる。『ためじゃない』は、お金が無くなるといけないから、そこはバイキング弁当をやって、お金を稼いでいるみたいな感じ。**

C児の本時始めの考えは「どちらも」であり、「お客さんのため」の根拠としては、バイキングであれば好きなものを選べるという点だけを挙げている。本時始めの段階では、C児にも他の子どもたちの中にも、ワンコインで沢山食べられるバイキング弁当に助けられている人々（お客さん）の存在は、まだないことが伺える。

②　「質の悪いもの」を売ることがどうしてお客さんのためではないのかクラスに問いかける場面

T　：スーパーAはお客さんのために古くなったものは捨てているって言っていたけど、K商店はそういうものを使っている。それについて、みんなどう？ S児：お客さんのためではない。なぜかというと、質の悪いものは食べたくないからです。 （古いものを食べたくない。古いものを出すのはお客さんのためではないという意見に同調

する声、数人。）
C 児：先生でもさ、なんで質の悪いものを売っているとお客さんのためじゃないの？質の悪いものでも食べられるならいいじゃん。
H 児　：質の悪いものがどういうものなのかが知りたくなるわ。
YU 児：お客さんがお腹壊したとしたら・・・
C 児　：先生。バイキング弁当だけじゃなくてさ。他の食材にも目を向けた方がいいんじゃない。
ＲＮ児：でも、別に腐ってないしもう少ししたら食べられなくなるものだから腐ってないよ。（つぶやき）

スーパーA との比較の中で、「賞味期限が迫った食材は捨てるのがお客さんのため」という意見や、「古いものは食べたくない」という子ども達の価値観に基づくつぶやきなどが続くと、古いもの「質の悪いもの」を出すのは「お客さんのためではない」という雰囲気に教室が偏っていった。授業者が「『お客さんのためではない』方に流れが変わった」と感じたその「時」に、C 児は、「ねえ先生でもさ。なんで質の悪いものを売っていると、お客さんのためじゃなくなっちゃうの？」と、友だちのつぶやきに割って入り、教師とクラス全体に力強く問い返すのである。子どもの発言やつぶやきを改めて追ってみると、この問い返しには、「K 商店が『お客さんのためではない』という考えだけに偏ってしまうことに抵抗をしたい」という C 児の確かな意図や思いが見えてくる。しかし、同時に C 児自身も『お客さんのため』であると、はっきりと言える根拠を未だ見つけられずにいたのである。ここで、しっかりと「古くなった食材」とはどういうものなのかを押さえておく必要があった。

③「お客さんのためになっていることが、お店のためにもなっている」と、本質に迫っていった場面

C 児：これさ、どっちも回っているんじゃない。（指を自分の前でグルっと一周させながら）
【写真１】これ、お客さんのためにもなっているじゃん。お店ももうかるじゃん。だからさ、どっちのためにもなる。（両手を顔の前で強く組み合わせる）【写真２】

【写真１】「どっちも回っている」ということを指を回して表現している。

【写真２】「お客さんとお店どっちのためになっている」ということを、手を握って表現している。

求め続けていた『お客さんのため』であるという根拠を、教師の示した学習材「お客さんの声」に見出した C 児。何かを閃いたように「これさ、どっちも回ってるんじゃない。これ、お客さんのためにもなってるじゃん。お店ももうかるじゃん。だからさ、どっちものためにもなる。」と N 児に語り、「先生、ちょっと意見変わった」とつぶやく。さらに、C 児はこの後、「お客さんも K 商店も「Win-Win」の関係である」と話す。授業が始まる前「どちらもある」と考えていた C 児は、「お客さんのため」と「お店のため」を別のこととして考えている。しかし、授業の中で「バイキング弁当をやってお店を人気にしたい。そうすれば、駐車場とかも大きくできる。」という H 児の意見や、「古くなった食品を安く売ることは、お店の儲けにもなる。」という A 児の意見を聞いて、「お客さんのためにやっていることは、お店のためになっている。つながっている。」ということに気づいていったのではないか。だからこそ、C 児は終末場面で「回っている」という表現をしたのではないだろうか。C 児はこの後、単元のまとめで、「K 商店では、お客さんのために少しでもなれるように工夫して、ウィンウィンになるようにしている。」と書いている。当初「お客さんのため」という理由が「楽しませるため」だった C 児が、「お客さんのためになるように」と変容していったのである。「楽しませる」だけではなく、「お客さんのニーズに応えること」に、単元を通して気づいていったことが伺える。

R児の学びの様子（本時）

①自分の目で見た確かな経験を根拠にしながら語る場面

H児：色々お惣菜を売って、お弁当も売ってお店を人気にするため。だって、お金があれば、他の食品も売れるし、駐車場だって広くできる。だからお店のため。
（ここでR児は「スーパーAは魚をななめに切って大きく見せているけれど、K商店はあまりそういうことをせずにもともとの大きさを見せている。」と学習カードに書いた。）
T　：どう？自分の考えある？
N児　：お客さんのためではなかったら、
T　：お客さんのためでなかったら、そもそもお客さん来ないってことね。実際に行ったときお客さんいたよね。
・２・３人　・人気がないってこと？
K児　：もうちょっと早い時間ならいると思う。
R児　：俺が行ったときめっちゃ来ていたよ。

この場面でR児は学習カードに次のことを書き込み始めた

「スーパーAは魚をななめに切って大きく見せているけど、K商店はあまりそういうことはせずにもともとの大きさを見せている。」

スーパーAとK商店での「魚の切り身」、「K商店見学で来店していたバイキング弁当のお客さん」･･･R児は自分の目で社会事象をきちんと見ており、それが本人の「確かな経験」となり、そこからスーパーAとK商店の違いを見抜こうとしていたのだろう。

①　K商店には「お客さんへの思い」があると考えた場面

A児　：お客さんのためではないと思います。お客さんのためでもあるかもしれないけれど、どっちかというとお店を優先して、古くなったものよりを安く売って、お店をつぶれないようにしている。
R児　：古くなったものを使っているから、より安くお惣菜を売ることができる。
T　：A君は、それがお店のために売っているって考えたんだね。
TR児　：お客さんのためではない。スーパーAは古くなった食材を捨てるからお客さんのため。（確かに）でもK商店はお金が厳しいから、古くなったものをバイキングにしている。
HI児：それってさ、お金のためにもかかわるでしょ。スーパーAは大きいから食中毒になったら広まっちゃうじゃん。広まらなかったら、ずっと人気があってお金がたまっていく。だから、お金のためでもある。
（ここでR児が挙手をするが指名されなかった。すると学習カードに「バイキングはお客さんに色々なものをたべてほしい」と書き足す。）

R児は、「安いとか古いとか」ではなく「K商店はお客さんへの思いがあって総菜を作っているのだ」と感じている。K商店の本質に一歩近づいた場面であった。

③「質の悪いものは売ってなかった。俺見てきた！野菜がたくさん売っていた。魚が少ししか売ってなかった。別に特別なもの売ってなかったなあ。」と、見学経験やこれまで学んできたことを根拠に語る場面

T　：でも、K商店、そういうもの売っていた？（生鮮野菜の写真提示）
R児：質の悪いものは売ってなかった。俺見てきた！野菜がたくさん売っていた。魚が少ししか売ってなかった。別に特別なもの売ってなかったなあ。
T　：どんな感じのもの？お弁当とかは･･･
H児：見た目がよくなかったものはお弁当
R児：人は見た目で判断しちゃ行けないけど、果物は見た目で判断･･･
R児：片方（K商店）は新鮮じゃないけど片方（スーパーA）は新鮮だけど高い。
K児：K商店は先週の火曜日100円ぐらいで安いものを売っているのもあったよ。
T　：Kさんおばあちゃん毎日行っているでしょ。
K児：近いし、安いから。
R児：あと、食品ロスも防げるから。

「質の悪いものは売ってなかった。俺はこの目で見てきた！」とやはり見学経験を根拠に自信をもって話すＲ児。「特別なものは売ってないけど悪いものは売っていない」それがＫ商店だとＲ児はとらえている。でも、「新鮮じゃない野菜は安い」と考えている。Ｋ児の「近いし安いから」の発言を受けて「食品ロスも防げるから」と付け足した。この段階でＲ児はＫ商店の本質にさらに近づいていった。

④「おいしいからべつにいいな」…授業の終末にバイキング弁当を買っているお客さんの立場からＫ商店の本質に近づいた場面

【Ｒ児のふり返り】
（最初）たくさんの考えが出てきてみんな一人一人がちがう考えをもっていてどの考えもすごいなと思いました。（と一気に書く）
（教師の支援後）お客さんのことは初めて来たときは、そんなにものはないと思ったけど、２回目の時は安いと思って、たくさん買いに来ている。古いものを使っているけど、「その分安いしおいしいからべつにいいな」と自分がお客さんだったら買うと思います。

「おいしいからべつにいいな」という言葉はまさにバイキング弁当を購入しにくるお客さんの言葉である。つまり、生鮮食品を買いに来るお客さんとは異なるニーズを持っていることに気づき始めている。ここに触れたＲ児は、ぐっと素材の本質に近づいたと考えられる。Ｒ児は、本時の前から「古くなったものを使えば、その分お惣菜は安く売れる。」と言っていた。この時点で、お客さんは新鮮さよりも、安さを求めてくるということに気づいていたのではないか。また、第９時の時点で「なんでスーパーA では古くなったのものお惣菜にしないの？」という疑問をもち、最終的には「やればいいのに。売れれば儲かるのに。」という考えだった。ここではお店の立場に立って、何がお店のメリットになるのかを常に考えているように感じる。「バイキングはお客さんにいろんなものを食べてほしい」と考えるＲ児の拠り所となっていたものは、自分自身が実際にその場に行き、ご主人の話を聞き、お弁当を食べて感じたことだろう。Ｒ児は、人の気持ちにとても敏感である。日常生活では友だちが泣いていると、すぐに駆け寄って慰めている。また、そっと横から見守っていたり、その場で静かに待っていてくれたりする優しさがある。Ｒ児なりに友だちから何かを感じて、助けてあげているように思う。そういったことから、Ｒ児は実際にＫ商店に行き、ご主人に会って、話を聞き、自分の目で見てきたことで、ご主人のお人柄や思いを人一倍感じ取ったのではないか。だからこそ、「おれは見てきたから知っている！」という姿や、本時の最後までお店を肯定的に捉える姿につながったのではないか。その後の授業（第12時）で、「お腹いっぱい食べたいよね。」とつぶやく場面があるなど、バイキング弁当を買いに来るお客さんの願いに気づいていたＲ児。単元の最後のふりかえりでは、「お客さんの考えも違えば、お店の考えも違う。」ということに気づいていった。

６　次時以降の子どもたちの様子

【第12時・第13時】本時の中で曖昧になってしまったことを、次時に確認し、「Ｋ商店にバイキング弁当を買いに来る人はどんな人なのか」を考えた。そして、ご主人の話からご主人の思いを知った子どもたちは、「お店の儲けだけを考えているわけではない。お客さんのことを大切にしてくれている。」「店長さんはみんなのために色々我慢したり、お客さんが支えたりしているから、Ｋ商店は生き残っていると思った。」など、Ｋ商店が大切にしていることに迫りながら、自分の考えを確かなものにしていった。単元の最後に第９時の時点でも出された「スーパーA とＫ商店が同じような工夫を行っていない理由」について話し合った。それぞれに考えがあると子どもたちが言っていたので、どんな考えがあって、なぜ考えが違うのかを話し合った。「そっちの方が売れるかなぁって。」「お客さんの考えで･･･」とお店はお客さんのニーズを考えて経営しているということに改めて気づいていった子どもたち。最後には、「Ｋ商店には野菜がいっぱいほしい、色々な食べ物がほしいっていう人がきて、会社の方や男性が多いからその人たちのために栄養があって、いっぱい盛りつけているものが多いのかもしれない。スーパーA は新鮮なもの。」と、お客さんのニーズの違いとそれに応えるお店の考えの違いに気づいていく。そして、「スーパーA もＫ商店もお客さんのためだし、お店のため。だから、Win-Win か。」と単元を通して、販売の仕事の本質に迫る子どもたちの姿があった。

7　成果と課題

⑴　成果

・スーパーA は新鮮さを大事にするために賞味期限が迫ってきた食材は、まだ食べられるものであっても廃棄する。その食材をお惣菜にすることはしていない。お惣菜のクオリティを下げないためである。だからこそ廃棄はやむを得ない。K 商店に並ぶ生鮮食品は新鮮である。少し古くなったけど十分食べられるものはバイキング弁当にしているからだ。スーパーA を先に学ぶことで、「賞味期限が迫ってきた食材を総菜にするか廃棄するのか」というところをクローズアップしていくことができた。今回のように比較して考えさせる場合は、子どもたちが比較対象にどのような順番で出合うのかという点も、大切になることが分かった。

・本単元を通して、子どもたちの思考の根拠となっていたことは、「見学に行って自分の目で見たこと、給食の時間に実際に食べたバイキング弁当、ご主人から聞いたお話、K 商店で買い物をするお客さんの声」だった。実際に出会い、体験した社会的事象が、子ども自身の中で「確かな経験」として培われ、それを根拠にしながら素材の本質に迫る姿が見られた。一人ひとりにこのような根拠があるからこそ、友と話し合う必然性が生まれ、話し合う中でお互いの考えの根拠となるものに触れることで、さらに見方・考え方を広げ、深めていく姿があった。

・今回のように、授業者自身が惚れ込む素材を見つけ出し、その魅力とは何なのか素材研究を深め、素材の本質を導き出していくことで、子どもたちが出会ってほしい「人・もの・こと」が明確になり、そのための単元構成を考えていくことができた。

⑵　課題

・「古くなった食材」という捉えが曖昧で「古くなったのも＝悪いもの」のような認識をしている児童がいた。また、K 商店には新鮮な野菜を買いに来る人もいるということ、新鮮な野菜を買いに来るお客さんとバイキング弁当を買いに来るお客さんは、求めているものが違うということが明確になっていなかった。そこを明確にすることで、「K 商店に来るお客さんのニーズ」を子どもたちが考え、それに応える K 商店の工夫に気づきながら、本時の中で K 商店の本質にさらに迫っていくことができたのではないか。

・本時のように思考・判断を問う授業を行う際には、子どもたち自身の確かな事実認識が欠かせない。子どもたちの思考の道筋を辿りながら、単元全体の中でどのような資料をどのタイミングで出せばよいのか、教師の出はどうあったらよいか、さらに「子ども理解」を深めていくことも大切である。今後も実践を重ねる中で研究を進めていきたい。

Ⅲ　中学校の事例１「アフリカ州　～『グローバル化』と『開発』の光と影～」中学校第２学年

１　素材の本質

「ローカルとグローバル、国内と国外、統合と分裂、そして光と影。グローバル化とは、様々な相反する現象が矛盾を孕みながらも同時進行するプロセスである。」『アフリカ経済の真実』

大航海時代を迎え、世界史に未聞のグローバル経済を誕生させた三角貿易は、巨大な資本を形成し、それはやがて欧米の、そして日本の産業革命の実現を後押しする力となった。しかし、新たな世界の礎を築いた三角貿易は、１千万人のアフリカ人奴隷の人々の上に成り立っていたことを忘れてはならない。資本の形成や産業革命を三角貿易の光とするならば、アフリカの人々への多大な被害は影であり、この光と影の両面が「グローバル化」や「開発」には常に、同時に存在してきたと言える。

「奴隷解放」が実現したアフリカは、「文明化」という大義名分の下、ヨローッパ諸国によって分割統治され植民地となった。植民地アフリカでは宗主国のシステムや言語を理解できる一部の「アフリカ人エリート」による間接統治が行われ、現地の人々はプランテーションでの強制労働を強いられた。やがて独立を果たした後も、植民地時代の関係は依然として残り、国境、社会体制、言語政策、宗主国のための換金作物をつくる農園経営などがそのまま独立国に引き継がれていった。アフリカは常に「グローバル化」と「開発」の負の側面を背負い続けてきた地域なのである。

一方、近年のアフリカでは、「最後の市場」「希望の大陸」と称される加速度的な経済成長が見られる。海底油田やレアメタルなどの豊富な資源の開発を目的に、世界中の企業が競ってアフリカへの投資を始めているのだ。中でも「世界の工場」中国のアフリカ進出と資源の依存度は目覚ましい。そうした動きを背景にアフリカ各国の GDP の成長率はついに先進国を上回るまでになり、大陸各地で外国企業による大型の都市プロジェクトが進行している。今、アフリカ経済の目覚ましい成長を支えているのはまぎれもなく外国企業による「開発」と、世界規模で展開されている経済や産業の「グローバル化」なのである。しかし、豊富な資源があっても国民のほとんどが貧しい、または外資が開発をしても現地の人々の暮らしが一向に豊かにならないという資源富裕国特有の貧困が同時に存在している。そして、紛争や難民、伝染病や自然破壊など「希望の大陸」とは程遠い現実も依然としてアフリカ大陸を覆っているのである。

今、日本をはじめ国際社会で声高にアフリカの「開発」が叫ばれている。しかしその「開発」の恩恵を受けることができるのが、開発をする側の人間、一部の「アフリカ人エリート」だけであるならば、アフリカを「開発」の犠牲にし、搾取の対象とみなしてきた植民地時代と本質的には変わらないのではないだろうか。「グローバル化」と「開発」の光と影を見つめ、そこに織りなす人間の営みの本質に迫っていきたい。

２　単元展開の概要（全５時間）

学習問題　（数字）□主な学習活動　・予想される生徒の反応　◎考えの深まり	★☆本質に迫る根拠
１　「グローバル化」によって、アフリカ州はどのように変化してきたのだろうか。	
⑴「グローバル化」という言葉の持つイメージを出し合う。 ⑵歴史の中でアフリカ州が抱えてきた課題と、現代の変化についての資料を読み取り、「グローバル化」の負の側面を予想する。 ◎「グローバル化」によって豊かになった国々の陰でアフリカは奴隷制や、植民地時代の強制労働などで苦しんできたんだ。 □資料を見て、多くの外国企業がアフリカに投資し、携帯電話の普及率が高まり、都市が発展している現代のアフリカ州について知る。	★グローバル化の負の側面の歴史 ☆アフリカ経済の近年の急成長

⑶アフリカ州が抱える貧困や格差、紛争、感染症、などの問題を紹介し、特徴的な国の名前と位置を地図で確認する。 ・ナイジェリアはGDPのランキングが１位なのに、貧困の割合がとても大きいのはどうしてかな。 ⑷本時をふり返り単元の学習問題を決める。	
単元を貫く学習問題：貧困や紛争などの課題を解決するために、世界の国々はアフリカ州とどのように関わるべきか。	
◎アフリカ州にある問題は、どうすればなくすことができるのだろう。 ・寄付金を送ったり、支援活動を行ったりすることが大切だと思う。 ◎アジア州のように外国の企業がアフリカ州に行けば豊かになると思う。	
２　アフリカ州の自然環境や、人口、文化にはどのような特色や課題があるか。	
⑴アフリカ州の自然や気候の特徴を大きくとらえる。 □①白地図に主な地名と単元で扱う地名を書く。 □②降水量を示す地図、雨温図を見て各都市の気候区を調べ、雨量と温度の関係を捉える。 ⑵国立公園や、象の密猟等の資料を見てアフリカ州の自然破壊と、先進国による自然保護の課題について考える。 ⑶アフリカ州の文化的な特色と課題（言語、教育、人口）について考える。 □地図帳の統計や資料を見て、アフリカで使われている主な言語について調べなぜその言語が使われているか予想する。 ・国境や言語など、今のアフリカ社会にも植民地時代の影響が残っている。 □「一部の人しか使えない言葉がなぜ今でも公用語になっているのか」考える □アジア州の学習を復習しながら、「人口増加がアフリカ州の成長や世界の経済にどのようにつながるか、どのような課題を生むか」教科書やインターネットで調べ記述する。	★☆自然保護、グローバルとローカルの矛盾 ★植民地統治時代を引き継いでいる社会の構造 ☆可能性を秘めた２０億人市場・アフリカ若い人の多さ
３　アフリカ州の産業にはどのような特色や課題があるか。～「グローバル化」と「開発」の光～	
⑴アフリカのGDPが、先進国に比べて成長していることを確かめ、アフリカ州の経済成長について考える。 □資料を見て、アフリカ諸国で大規模な都市プロジェクトが進んでいること、中国が他国を大きく上回りアフリカに進出をしていること日本は中国などの国に比べてアフリカの進出に出遅れていることなどを確かめる。 ⑶B◎Pビジネスと、深刻な日本経済について知る。 □資料を見て、アフリカの農村部にまで携帯電話が普及したこと、B◎Pビジネスが最下層の人々の生活改善に貢献していることを確かめる。 □資料を見て、日本が深刻な経済状況にあること、経済再生のために（アフリカが持っている）レアメタルが必要であることを確かめる。 ⑷本時の学習をふり、「アフリカ経済が今後も成長すると考えられる理由」と「アフリカの経済進出に対する中国と日本の違い」を根拠となる資料と共に記述する。	☆アフリカの経済成長 ☆世界の注目が集まる豊富な資源 ☆ビジネス＝援助の対アフリカ外交 ☆ビジネス＝開発貢献のB◎Pビジネス ☆企業の CSR 活動による地域総合開発
４　アフリカ州の産業にはどのような特色や課題があるか。～「グローバル化」と「開発」の影～	
⑵資源が豊富な国の経済の特色と課題について考える。 □「資源がたくさんとれるのに貧しいという国が多いのはどうしてか」予想し学習カードに記述する。 ◎資源開発がアフリカの成長の一番の要因だったけど、本当にアフリカの人のためになっているのかな・・・。 □資料を見て、マダガスカルの資源開発の特色と課題を確かめる。 ・日本はこんなに貧しい国からレアメタルを輸入しているんだ。自分たちが使っている物にもマダガスカルのレアメタルが使われているのかな。	★資源富裕国が抱える貧困・格差・紛争の構造 ★資源開発による環境の破壊、現地社会から隔離した飛び地開発

・日本や先進国に輸出するために現地では環境が破壊されているんだ。それも現地の人にはあまり利益がないなんておかしい。 ⑶本時をふり返り、アフリカ州の資源が豊かな国で国民の生活が貧しい理由」を根拠となる資料と共に記述する。	
５　アフリカ州でこれからもこの「グローバル化」や「開発」を進めるべきなのだろうか。※　本時案参照	

３　本時案

（１）主眼

資源があっても国民の大半が貧しいままであるというアフリカ諸国の実情を知り、「グローバル化」や「開発」の在り方を考え直し始めた生徒たちが、アフリカ州でこれからも「グローバル化」や「開発」を進めるべきなのかを考える場面で、意見を交流したり、資料を基に再度学習問題について考えることを通して、開発の主体である人間の考えや価値観によってアフリカ社会に与える影響も変化をすることに気づき、先進国に暮らす人々と貧困や紛争で苦しむアフリカの人々とが築く関係について、考えを深めることができる。

（２）本時の学習材

①　間接統治　②CSR（企業による地域貢献）活動の拡大

（３）展開

学習活動	予想される生徒の反応	教師の手立て　　【評価】	時間
１学習問題について、考えを交流する。		・前時にＨ生が書いた「この（今の）グローバル化を続けていくのは絶対によくない」という言葉を紹介する。	20
学習問題：アフリカ州で、この「グローバル化」や「開発」をこれからも進めるべきなのだろうか。			
	Ｈさん　（進めるべきでない） ・貧困や格差がある中でこのグローバル化を続けていくのはよくない。 ・価格が不安定な資源への依存がよくない。農業などに力を入れて貧困などがなくなっていくことを願っている。 Ｒさん　前時欠席	Ｋさん　（進めるべき） ・グローバル化によって経済が発展すれば貧困などもなくなる。 ・アフリカの資源を日本や世界の国々も必要としている。	
	・これからもっと資源が必要になる時代になるからアフリカの開発が必要。 ・開発は必要だけど、別のやり方で進めないといけない。 ・貧困や紛争で苦しむアフリカの人々にとってはどうだろう？	・「日本」「諸外国」「貧困や紛争に苦しむアフリカの人」等、誰の視点から考えるべきか、問い返したり発言を整理したりして、学習課題を立てる。	
学習課題：今の「グローバル化」や「開発」は、貧困や紛争で苦しむアフリカの人々のためになるのか。			
２学習課題について、根拠となる資料を探し、自分の考えを書く。（個別最適）	Ｈさん ・豊かになるのは、外国の企業や一部の裕福な人。貧困に苦しむアフリカの人の暮らしはよくならない。 Ｒさん ・格差の問題を解決しないと、開発をしても貧困に苦しむアフリカの人の暮らしは豊かにならない。	Ｋさん ・今はまだ、豊かになっていないけど開発が進めば貧困も解決されると思う。	20
	①自分たちのことしか考えていない開発では、奴隷や植民地の時代と結局同じになってしまう。 ②これからは、アフリカの人のこともちゃんと考えている企業じゃないと現地で受け入れられていかない。地域をよくする企業が開発を進めれば貧しい人の暮らしもよくなる。	①のような考えが出たら出す資料 **間接統治** ②のような考えが出たら出す資料 **CSR 活動の拡大**	
３本時をふり返り、再度学習問題について考える。	❶開発はする人次第でよくも悪くもなるのだと思う、貧困や紛争で苦しい思いをしているアフリカの人たちのことをもっとよく考えた上で必要かどうか決めないといけない。 ❷これからも「グローバル化」や「開発」はやっぱり進めるべきだと思う。外国もアフリカもお互いが豊かになる方法を考えていけばよいと思う。	【評価】 先進国に暮らす人々と貧困や紛争で苦しむアフリカの人々とが築く関係について、考えを深めることができる。（ノートへの記述や発言）	10

（前時のＨ生の学習カード） どの国も発展してきている中、今でも貧困や感染症に苦しんでいる人たちがたくさんいます。貧困をなくすにも、感染症を減らすにもほかの国との関りがとても大切になってくると思います。感染症を減らす薬や貧困をなくす方法はアフリカ以外のところにもきっとあるはずです。これはアフリカだけの話ではありません。何事も一人で考えないで他の人の意見を聞くことが大切です。

（考察）前時の学習カードに見られるＨ生らしい「見方・考え方」

Ｈ生が前時に書いた学習カードには、Ｈ生らしい「見方・考え方」がよく表れている。「感染症を減らす薬や貧困をなくす方法はアフリカ以外のところにもきっとある」からこそ、「ほかの国との関りがとても大切」であり、世界中が手を取りアフリカの問題を解決するための「グローバル化」こそ、世界の国々が進むべき道なのである。そのような考え方をもつＨ生が本時では「グローバル化を進めるべきではない」という立場に立って発言をしている。それは、学習問題に「この」の一言が加えられたことから始まっている。

（２）　授業記録①（学習活動１　学習問題に「この」の一言を加える場面）と考察

１Ｔ	Ｈさんが前の時間に書いたことを一つ紹介します。 「このグローバル化をいつまでも続けていくのは絶対によくないと考えています」 このグローバル化ってこれだよね。（教室の掲示を指しながら）今まで勉強したこのグローバル化だよね。 なので学習問題に一言付け加えさせてください。 「アフリカ州で、この『グローバル化』や『開発』をこれからも進めるべきなのだろうか。」 始めに学習カードに今の自分の考えの位置を書いてみて。 （カードに記述）
２Ｈ生	この・・。現？
３Ｔ	現・・今の。

（考察）「続けるべき」から「続けるべきではない」に考えを変えたＨ生

前時にはＨ生もＫ生も共に（Ｒ生欠席）グローバル化を「進めるべき」と、自分の考えを記述していた。しかし、その内容を個々に見てみると、Ｈ生は「この（今現在の）グローバル化は続けるべきではない」が、「開発の仕方を変えて（悪い部分は改善して）」、「進めるべき」と記述していた。一方、Ｋ生は「（今現在のグローバル化はデメリットもあるが）はるかにメリットの方が大きい」と考え、「続けるべき」と記述している。つまり、負の側面も含めた今現在のグローバル化を進めるべきかという問題については、Ｈ生とＫ生の判断にはずれがあることが分かる。そこで、本時では、初めに二人の考えのずれを明らかにするために、前時Ｈ生が書いた一文「このグローバル化をいつまでも続けていくのは絶対によくないと考えています」を紹介し、学習問題に「この」の一言を付け加えた。

さらに、「この」つまり「今現在の」という同じ土俵で「グローバル化」を考えることで、現実の社会にある選択や判断を生徒に問いたかった。アフリカに投資をするのか、しないのか。開発や援助を進めるのか、進めないのか。今、国や企業、あらゆる立場の人々が現実にその問題と向き合い、判断し選択をくだしているのである。

Ｈ生は教師に「この」の言葉の意味を再確認し、悩みながら、ほとんど中心に近い位置ではあるが、「続けるべきではない」方に自分の立場をプロットした。

（３）　授業記録②　（学習活動１　学習課題を立てるまでの場面１）と考察

５T	じゃあ早速、議論していきたいと思います。誰からでもどうぞ。
６H 生	このグローバル化は、あんまり進めるべきではないと思う。グローバル化を進めることはいいと思うんですけど、現段階のグローバル化を進めることはあんまりよくないと思います。現段階のグローバル化は、光の部分、良い部分もあるけど悪い部分もあって、**アフリカは今貧困とか差別とかいろんな問題があって、今、現段階のグローバル化に問題があるからだと思います。**
７T	「この」って言うのすごい強調してたね。
８H 生	そう。グローバル化は進めた方がいいと思う。でも、「この」グローバル化はね。
９T	と、H さんは言っていますが。
10R 生	グローバル化のいいところもあって、悪いところもあるんだけど。今 H さんが言ったみたいな。それで、やらないって訳にはいかないかな。やらなかったらやらなかったで、だめなこともあるんじゃないかな。と思いました。
11K 生	H さんが言ったみたいに良くないところもあるけど、グローバル化することで別の良いところで補えると思いました。
12T	R さんやらないわけにはいかないって言っていたけど。どうして、やらないわけにはいかないの？やめちゃえばいいと思います。
13R 生	アフリカの中にある物を活かしきれていないっていうか。もっと色んなことができるっていうか。もったいない！っていうか。やった方が得があるんじゃないかなと思った。
14T	具体的に、アフリカの中にある物って？
15R 生	石油や資源。
16H 生	**じゃあ。わたしも。** **「進めるべき」と「進めるべきでない」のぎりぎりの所に名前を置いたんだけど。３人とも思っていること、考えていることは同じで、2 人は光に目を付けて、私は影に目を付けて、目の付け所が違うだけで多分、思っていることは同じなのかな。**
17T	**２人ともそう？**
18K 生	**うなずく。**
19R 生	**う～ん。まあ・・。**

（考察）友達との考えの違いに気づき議論の必要性を感じていったＨ生

「３人とも思っていることは同じで」（16H 生）というＨ生の発言は、「みな同じ考え（よいところもあれば悪いところもある）なのだから議論は難しい」との、意思表示であったと考えられる。それに対してうなずく 18K 生と、納得がいかないようにあいまいな返答をした 19R 生。「みんな同じ考えだよね」と同意をもとめる 16H 生に対して、19Ｒ生は、「わたしはあなたの考えとは少し違うよ」と応じた。ここに、Ｈ生とＲ生の考えのずれが表れた一場面があった。以後、議論は難しいと考えていたＨ生が積極的に発言を続けていったのは、こうした友の態度や言葉から、自分と友の考えとの違いに気付き、議論の必要性を感じ取っていったからではないだろうか。答えのない問い、はっきりとは言い切れない考え、それぞれに違う根拠・・・。議論の入り口は、ある意味混沌とした状態で始まるからこそ、授業を通して自分自身や友の考えへの気付きをより促すのではないか。

（４）　授業記録③（学習活動１　学習課題を立てるまでの場面２）考察

20T	（板書を指しながら）でも、H さんはグローバル化に「問題あり」って言ってるけど？
21H 生	たしかに。え～と。**輸出して、利益が出ると思うんだけど、そのお金が一部の人にしか回っていないから、貧困層の人々がいつまでも貧困のまま。豊かな生活になれないっていうのが問題だと思います。**
22T	今 H さんが言ったこと分かった？一部の人しか豊かになれないということが、貧困につながっているんだ。K 君、R 君それでいいんですか？
23K 生	一部の人しか、利益がないって言ったけど、それは今の「グローバル化」が始まってから時間が経っていないからじゃないかなと思います。
24T	K 君は、このグローバル化もこれから続いていけば、そうじゃなくなるということ？
25K 生	はい。
26T	どうしてそう思うの？
27K 生	**グローバル化以外にも最初の時は、一部の人しか利益が回らないことがある。この日本で言うと例えば Wi-Fi。Wi-Fi がまだ奈川にはつながっていないのは時間が足りないからだから。**
28T	例え話来たね。K 君、前回も日本の話してたよね。ついでにその話もしてもらえる？
29R 生 30K 生	資源。アフリカは資源がたくさんあって、日本は石油とかも採れる量が少ないから、輸入とかに頼って資源が高くなってしまっているけど、アフリカから輸入したら高くなったりするのを抑えられるんじゃないかなって思いました。
31T	K さん以前は、先進国が贅沢な暮らしをしたがるから、アフリカの人が苦しい思いをするって言っていたけど、先進国がアフリカから資源を輸入することはそれにはあたらないの？
32K 生	石油とか資源の輸出は値段の設定を高過ぎず、安過ぎず、丁度いい値段にすれば、資源を輸出するアフリカも、石油を輸入する国も、丁度よくてお金に余裕が出て来るんじゃないかなと思いました。
33H 生	アフリカは資源に依存しているって勉強したと思うんですけど、アフリカの輸出の図とかを見てみると、ほとんどが資源。数に限りがあるものが輸出の一番多い割合になっていて、そして石油って売る価格が高くなったり、安くなったり安定して利益を得ることができないものだから。資源だけじゃなくて農業とか ICT 系の物とかも取り入れられるとよいのかなと思いました。
34K 生	今は資源に依存してしまっている。でもこれから資源で得たお金を、他の産業にも充てればいいんじゃないかなと思いました。
35T	ちなみに、H さんが他の産業の例で農業を挙げたのは何か理由ある？
36H 生	他のアジアとか北アメリカとか南アメリカとか勉強してきたけど、どの州も国も、だいたい農業が大切で、アメリカだったらめっちゃ大きい畑を使って貿易の利益を得ていたから、アフリカも同じようにすればもしかしたら成功するかもしれない。
37T	もうちょっと問題の焦点を絞って考えてみよう。例えば・・・。(板書に言葉に印を付けながら)「一部のアフリカの人」・・。「日本の人」・・。それから「貧困や差別に苦しむアフリカの人」・・。「諸外国の人」。色んな人が「グローバル化」や「開発」に関わっていると思うんだけど、この学習問題は誰の立場で考えるのが大事だと思う？

38H	貧困に苦しむ人たち
39K 生	H さんと同じ。
40R 生	アフリカの人。
41T	（学習課題）「この『グローバル化』や『開発』は貧困や差別で苦しむ、アフリカの人のために本当になっているのか。」

（考察）身近なことを例に挙げて自分の考えを説明する K 生

27K 生は、開発の初期の段階では一部の人にしか利益が回らないこともあるということを、地元奈川に Wifi が設置されていないことを例に挙げて説明している。生徒は、自分の考えと、自分の経験とを常に行き来させながら素材や事象を見ている。だからこそ、素材（見つめる対象・向き合う事象）がより具体的なほど、生徒は自らの「見方・考え方」（こだわり）を十分に重ねることができるのではないか。本時の「開発やグローバル化を進めるべきか」という問題もより具体的にすることで、さらに考えを深めることができたのではないか。

（５）　授業記録４（学習活動２　学習課題についての考えを記述する場面＞

	（学習カードに記述）
42R 生	アフリカの人のためになっていると思います。石油を売ったりしても一部の人にしか利益が入らないって言っていたけど、その人達もそのお金がなければ貧困層になってしまう。初めからいい生活をしていたわけではないと思う。少しの人なんだけど、その人たちのためにはなっているし、少しくらいは他の人にも広がるんじゃないかなと思う。だからアフリカの人の為になっていないわけではないと思います。
43K 生	国ではなく、企業がアフリカの人を支援しているのかなと思います。
44T	企業が・・・？
45K 生	アフリカの人たちを支えている。
46H 生	**役に立っている部分もあると思って、（資料を示しながら）日本の企業がアフリカに行っているというのはすごいいいと思って、薬や食べ物などを提供して困っている人を助けることもできるし、企業が行ってグローバル化を進めることはすごいいいと思っているんですけど、それは役に立っていると思っているんです。だけど、資源に依存しちゃっているから、一部の人しか利益をもらえないっていうことが問題で、このグローバル化の全部を変えてほしいということではなくて、一部の悪い所を直していったらすごいいいグローバル化につながると思う。**
47T	じゃあ最後にもう一度今日の学習問題について自分の考えを学習カードに書いてください。
48K 生	グローバル化を今後も続けていけば貧困とかがなくなるのかなと思いました。
49H 生	最初と同じで、このグローバル化は続けない方がいいと思いました。でもこのグローバル化のこれくらい（半分くらい）はよくて、これくらいはよくないので、その一部を直していけばいいのではないかなと思いました。
50R 生	グローバル化を進めていきたい。資源には依存しているけど、それが貧困に直接結びついている訳ではないと思うので、少しずつでも経済を進められれば良いと思いました。

（考察）葛藤しながら「進めるべきではない」ことを選択したＨ生

学習課題を提示した後の下線部 46H 生の言葉。「だけど、資源に依存しちゃっているから、一部の人しか利益をもらえないっていうことが問題」これは、Ｈ生らしい「見方・考え方」であり、この一時間こだわり続けたことである。一部の人だけが利益を受け、その陰で貧困や格差に苦しむ人が生まれるような状況を、H生はどうしても見過ごすことができないのである。

しかし、K 生やＲ生との考えのちがいが明らかになっていくほど、Ｈ生は 46H 生「役に立っている部分もあって・・」「すごいいいと思っているんですけど・・」のように、「今現在」の「グローバル化」や「開発」に完全に反対という訳ではないことを身振り手振りを加え再三訴えていた。つまり、H生自身も現実の社会に生きる人々と同じように矛盾と向き合い、葛藤しながら「進めるべきではない」ことを選択しているのである。しかし、「開発の主体である人間の考えや価値観によってアフリカ社会に与える影響も変化をすることに気づく」までには至らず、どのような「学習材」や教師の出によって、より生徒の考えを深め「素材の本質」に迫ることができるのかという点が課題として残った。

５　成果と課題

・徹底した素材研究により、現実の社会に生きる人々が抱える矛盾や葛藤、人間としての温かさを「素材の本質」として導き出し、単元の山場に学習問題として据えることで、生徒は自分なりの「見方・考え方」（こだわり）を働かせながら「素材の本質」へと迫ることができる。

・「素材の本質」は、小学校の事例と同様に素材全体の概要をまとめた上で、１５０文字程度の短文で書く。そうすることでねらいをより明確にすることができると共に、単元全体のねらい、単元の山場でのねらい、評価を構造的に計画して「素材の本質」に迫ることができる。そして、ねらいを明確にすることは授業の中での生徒の姿の捉え方や教師の出方に大きく影響をする。

また、「素材の本質」の最後の一文は体言止めで書くことで、素材（見つめる対象・向き合う事象）がより具体的になる。素材が具体的になるほど、生徒は自らの「見方・考え方」（こだわり）を十分に重ねながら素材を見つめることができる。

・議論を通して生徒の「見方・考え方」（こだわり）や考え方のずれが明らかになっていった時、更にどのような「学習材」や教師の出によって「素材の本質」に迫ることができるのかを今後研究する。

Ⅳ　中学校の事例２　波田中学校（松塩筑教育課程研究協議会）との共同研究

単元名「現代の日本と私たち」　中学校第３学年

１　波田中学校研究テーマ

（１）全校研究テーマ　　個の学びの充実　～「わかったつもり」ではなく「できた」という実感 ～

（２）社会科研究テーマ　さまざまな社会事象について、主体的に追究し、意欲的に表現する生徒

目指す生徒の姿	
全校	・生徒が対象と出会った際に「なぜだろう」「どうしてだろう」という思いをもち、自分なりの追究方法を考え学習していく生徒。 ・追究してきたことを他者と表現し合い、自分とは異なる対象の側面を見出しながら、深い学びを実践していく生徒。
教科	・友の発言や考えを尊重し最後まで聞くことができる生徒。 ・根拠に基づいて、自らの考えを練り上げ、まとめることができる生徒 ・資料の見方、考え方を活かすことができる生徒 ・追究で得られた自分の考えをまとめ、発表することができる生徒 ・個人追究や共同追究を通して、社会事象を多面的・多角的に捉えることができる生徒

２　単元の目標

・冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。

・高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に我が国の経済や科学技術の発展によって国民生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。

・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。

・現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

・これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現代と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

・現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。

３　評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ○高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	○諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

４　教材研究

（１）（単元構成について）単元を「東京オリンピック」を境に、前半と後半の小単元に分けて構成した。前半の小単元では、「復興」をテーマに、日本が戦後が発展した理由について、１９６４年までの出来事を国際社会との関係にも関連付けながら整理し、考察していく。そのため、ベトナム戦争やキューバ危機など、世界各国の動きについては「冷戦後の世界と日本の変化」をテーマとした後半で学習していく。前半と後半、それぞれでまとめを行う中で、「現代の日本へのつながり」と「これからの日本と課題」に着目できるようにしたい。

（２）（「復興」の捉え）単元の導入、小単元の学習問題を設定する場面では、何をもって「復興」なのか、生徒の捉えの差があることが予想される。「原爆投下後の広島」や「東京大空襲後の街」の様子の写真を示しながら、「終戦後の日本は何を変えなければならないか」と生徒に問いかけ、自由な意見を出し合う場を設定する。その中で単に街並みの変化のような「再建」だけでなく、学習指導要領にも示されている「民主化」や「国際社会への復帰」も含めて広い意味で捉えられように、生徒の反応を引き出しながら全体で共有していきたい。

（３）（「ピラミッドランキング」について）前半の小単元のまとめでは、日本が復興できた理由について、

影響の大きかった出来事を取り上げながら説明を行う。そのため、それぞれの出来事について比較したり、関連付けたりしながら整理する必要がある。影響の大きさをランキングにまとめる作業は、自己の思考を整理し、自分がどのような価値判断をしているかということを認知することができる。また、自分と他の人のランキングを比較することで、より思考が深まることが期待される。　出来事については、第２～５時でまとめの場面でフラッシュカードに残したものを取り上げる。煩雑な語句の羅列にならないように、一定の選択肢の中から６つを選ぶ、「ピラミッドランキング」を使用する。

５　単元展開と評価計画

「現代の日本と私たち」の指導計画　（●…「学習改善につなげる評価」　○…「評定に用いる評価」）

	学習問題・生徒の意識	評価の観点 知	評価の観点 思	評価の観点 主	評価規準等
導入	単元の学習問題：「戦後の日本は，どのように歩んできたか」				
	・戦後の日本は、何を変えなえればならないのだろう。			●	●終戦から現代までどのような出来事があったのか予想し、これからの学習の見通しを持って学習に取り組もうとしている。
	小単元の学習問題：「なぜ日本は、２０年で復興することができたのか」				
前半	第２時　学習問題：「占領された戦後の日本は、どのような状況だったのか」				
	・GHQの間接統治下で、戦後の焼け跡から復興を目指す中非軍事化が進んだ ・終戦後は社会が混乱し、国民生活も苦しかった 。　GHQの占領政策	●			●GHQが非軍事化などの新しい日本につながる占領政策を進めたことを理解している。
	第３時　学習問題：「日本国憲法が制定されて、日本はどのように変化したでしょうか」				
	・大日本帝国憲法のときよりも大幅に国民の権利が保障されている。 日本国憲法の制定　女性参政権の獲得		●		●新しい憲法の制定による日本の変化を、大日本帝国憲法との比較から考察し、表現している。
	第４時　学習問題：「冷戦が始まって、世界はどのように変化したのか」				
	・世界はアメリカを中心とする資本主義陣営とソ連を中心とした社会主義陣営に分かれて対立した。　冷戦 朝鮮戦争	●			●冷戦の発生により新たな国際体制が生まれたことを理解している。
	第５時　学習問題：「日本の国際社会への復帰には、どのような背景があり、その後どのような影響があったのか」				
	・日本が独立した背景には、冷戦の激化による資本主義陣営の強化を目指したことが影響している。　サンフランシスコ平和条約　日米安全保障条約　55年体制 ・日本はソ連と講和をし、国際連合へ復帰した。　国際連合への復帰	●	●		●日本が国際社会に復帰し、アメリカとの関係を重視した政権が生まれたことを理解している。 ●冷戦が激しくなる中で西側陣営の強化を目指したアメリカが日本の独立を認めたことを考察し表現している。
	第６時　前半のまとめ　小単元の学習問題：「日本は短期間でなぜ復興することができたのか」（本時）				
	・アメリカとの同盟関係を確立させたことが、現代の日本の繁栄につながっているのではないか。 ・日本が発展するきっかけは、日本国憲法の制定ではないか。その結果、平和で民主的な国家が目指されて、豊かな国になる土台ができたと思う。		○	○	○戦後の日本が急速に発展した理由を、世界の情勢や国際社会における日本の位置づけと関連づけて考察して表現している。 ○日本がなぜ短期間で復興することができたかについて、主体的に追究・解決しようとしている。

～現代の日本と私たち 後半の学習へ～

後半　小単元の学習問題「冷戦後の世界はどのように変化し、よりよい社会のためになにが必要か」

６　本時案

（１）主眼

戦後の日本について学習してきた生徒が、なぜ日本は、20 年で復興することができたのかを考える場面で、ピラミッドランキングを作成しながら、復興に大きく影響した出来事を見出すことを通して、戦後の日本が復興した理由を、これまでの学習をもとに、多面的・多角的に説明することができる。

（２）本時の位置（10 時間扱いの第 6 時）

＜前時＞日本の国際社会への復帰について、その背景には、冷戦の激化による資本主義陣営の強化を目指したことが影響しており、アメリカとの関係を重視した政権が生まれたことを理解した。

＜次時＞日本の経済成長について、国民の生活が豊かになり、マスメディアを中心とした文化が発達した一方で、公害などの問題が発生した。

（３）指導上の留意点

グループでの協働や話し合い活動では、復興の捉えとそのように作成した根拠を示すよう指示する。

（４）展開

過程	学習活動	予想される生徒の反応や意識	支援（・）と評価	時間
	学習問題：なぜ日本は，20 年で復興することができたのか			
導入	1 日本の復興に、最も影響をあたえた出来事は何か発表する。【全体】	○自分が考えた出来事と、他の人が考えた出来事が違うな。 民主化政策　非軍事化 日本国憲法の制定　冷戦　朝鮮戦争 サンフランシスコ平和条約 日米安全保障条約　55 年体制 国際連合への加盟	・前時までに作成したフラッシュカードを用いて戦後の出来事を 9 つ掲示する。 ・前時に考えた、一番影響を与えたと思う出来事について確認する。 ・異なる意見、迷っている意見を取り上げ、ランキングの必要性が実感できるようにする。	5
	学習課題：ピラミッドランキングを作成しながら、復興に大きく影響した出来事を見出そう			
展開	2 ピラミッドランキングを作成する。【個人】	○GHQ の下で行われた非軍事化や民主化が大きく復興につながっているのではないか。 ○アメリカとの同盟関係を確立させたことが、国際社会の復帰につながり、日本の復興に影響をあたえたのではないか。 ○冷戦のひとつである朝鮮戦争は、日本経済の復興につながる大きなきっかけだと思う。	・導入であげた 9 つの出来事から 6 つ選んで、学習カードのランキングを完成させる。 ・作成が進まない生徒にはどのように「復興」を捉えていたのかを確認する。 ・班でランキングを 1 つにする際、PC でジャムボードを使う。 ・班で PC を起動させて、ジャムボードでランキングを作成する。 ・スクリーンに作成したものを映し、全体で共有できるようにする。	7 15.
	3 作成したランキングを発表し、班でひとつにする。【グループ】	○自分が作ったランキングでは、経済的な面でしか考えていなかったが、国際連合への加盟をあげた人の根拠を聞くと納得できる。 ○日本が復興するきっかけは、日本国憲法の制定だと思う。この結果、民主化政策が行われ、政治が実現し、安定した世の中になったと思う。その中で、経済的な復興や国際社会への復帰が実現したと思う。	・発表を参考に、とめを記入するよう促す。 ・ランキングで使用した 9 つの出来事から選ぶ。 ・理由だけでなく、他の出来事との比較やつながりを書いた生徒がいたら紹介する。 戦後の日本が復興した理由を，これまでの学習をもとに，多面的・多角的に説明することができる。【学習カード】 ・生徒が発表する場を設け全体へ共有する。	10. 10.
	4 班ごとに発表をする。【全体】 5 日本が復興した理由を考える。【個人】			
終末	6 本時を振り返り、次時につなげる。	○日本が復興した理由を理解することができた。この後、日本はどうなっていくのだろう。	・次時の学習について確認する。	3

7　生徒の様子と考察

（1）3班の生徒とMY生の本単元の意識

3班「私は復興をこのように考えます」(8/24 導入時)	
M.Y生	当たり前を取り戻すこと。
T.K生	外国との関係が重要だと考える。アメリカの支配という形だった。アメリカとの関係がさらに悪化していたら復興は難しかったのでは。
H.R生	便利により近づくこと。アメリカや中国などの外国からの支配を取り除くこと。

(M.Y生について)

授業中には素朴なつぶやきや、質問をする生徒。本単元のはじめの「復興」への意識は、「当たり前の生活を取り戻すこと」と、していた。その際、私が「当たり前とは何か」と問い返すと、「衣食住を確保すること」と、前の座席の生徒との話し合いをふまえて発表する姿が印象的だった。

（2）本時の授業記録と考察

教師の発問・動き等	3班での話し合い	M.Y生の様子
・学習課題を掲示 ピラミッドランキングを作ってみよう（個人で５分間）		・名前を書いて、学習課題を書く ・予想をすぐ書く。 ・上位の項目から書いていく。 ・鉛筆を指で回しながら、黒板を見て、「国際連合への加盟」と書く。 ・2段目 「日本国憲法の制定」の字が分からなかったのか、学習カードを見返す。そして「非軍事化」と書く。 ・3段目 左「民主化政策」中「朝鮮戦争」右「日米安全保障条約」
・グループ活動 班でランキング作成。理由を考えながら。	T.K：国連加盟がみんな1番上だ。 H.R：憲法は3番目が良い。民主化によって平等になった。天皇は神でないと言ったから経済が発展した。 T.K：憲法、今までのとは真逆。非軍事化や天皇は神ではなくなり、国民の権利が尊重され、民主化が進んだ。格差をなくすために財閥解体が進められた。　人権の尊重も書かれていた。隣の国からの武器の注文も経済に影響したね。やっぱり国連加盟が1番上で。	・話し合いを聴いている様子。 ・憲法の制定⇔民主化政策と矢印を付け加える。他の人の意見を聴いて入れ替えたらいいか迷っている様子。
・グループの発表を聴いて、考えが変わったら、学習カードに付け足しておこう。	H.R：（上から）国連、非軍事化、日米安保、できることがあった T.K：上は加盟で良い？非軍事化は？？考えが変わったことある？朝鮮戦争はここにしよう	う～ん（ファイルを見直しながら）

・ジャムボードの打ち込み ・他班の発表を PC 上で覗いてみて ・班ごとの発表 ・まとめの記入 M.Y 生を指名	・T.K が中心になり、PC を操作 ・H.R は隣でアドバイスをする ・H.R、話し合いをふまえて、理由を PC に打ち込む ・55 年体制に×をする	2 人の作業を見ている。話を聴いている。発言はなく、うなずき程度。 ・じゃんけんに負けて発表者となり心配そう、解らない様子。 ・発表を聴いているのか、虚ろな様子。発表することが気になるようだ。これ、見ていい？ ・PC に H.R が書いた理由を見る。「国際連合への加盟」と書いて手が止まる。「終戦直後よりも国際的地位が確立し、外交などによりそれ以後の復興につながった」PC に書かれた理由を写す ・学習カードを見返し、「民主化などでも治安維持法が廃止されたおかげで政治活動が自由化された」と追加 ・書いた内容を発表

（考察）具体的な事象から復興を捉え直すことができた M.Y 生

3 班の 3 人は、始めから全員「復興に大きく影響した出来事」に、「国際連合への加盟」を書いていたため、スムーズにピラミッドを作成することができた。3 班は、第一に国際社会への復帰、その後に経済の復興という共通の認識を持っていた。

復興に貢献した出来事は同じものを選んだ 3 人であったが、その出来事を選んだ理由については、生徒によって違いが見られた。「外国との関係」が重要だと考えていた T.K 生、H.R 生に対して、M.Y 生は「当たり前を取り戻すこと」と、復興をやや漠然と捉えていた。しかし、班での話し合いを通して、「外交関係の再構築が経済の復興に大きな影響を与えた」と、具体的な事象から復興を捉え直すことができた。

M.Y 生は、話し合いへの参加の仕方がやや消極的であった。本時は単元のまとめの時間であったが、これまでの学習の定着度合いによって、話し合いへの参加や学習カードの記述に差が出ていたと考えられる。

8　成果と課題

・生徒たちが今までの学習の蓄積をふまえて積極的に考えたことが良かった。限られた時間の中ではあるが、今後も単元を意識して授業をすすめ、まとめの時間をとれるようにしていきたい。

・ピラミッドランキングは、個人の考えを整理する上では有効だが、グループでひとつにするという作業には無理があり、生徒の思いやこだわりを消してしまったかもしれない。グループでの話し合いで戦後の出来事を話題にすることは、戦後の復興要因を探るうえで参考になった生徒が多かった。